

令和元年11月13日付【日本下水道新聞】

下水道事業促進全国大会

<下水道による防災・減災の推進>

下水道による防災・減災の推進

公益社団法人全国上下水道コンサルタント協会会長

村上 雅亮



台風19号・21号は記録的な大雨をもたらし各地で浸水被害が発生しました。これまでと雨の降り方が変わっています。温暖化により脅威を増す豪雨災害に対し地域を守る下水道として浸水対策事業を一

層強化すべきと考えます。

まず、地域の雨水排水特性の把握、内外水の浸水予測による弱点の把握、効果的な浸透・貯留・排水施設の整備、気象情報と水位等に基づく予測と予報体制の整備が挙げられます。また、雨天時浸入水対策やICTによる維持管理の高度化も副次的な効果があると考えます。さらに被災後の復旧対応については、河川氾濫等に対する処理場・ポンプ場の揚水機能と電気設備の耐水化が必要であり、処理場の潜在的資源を活用したりリノベーション（防災拠点化等）も有効と考えます。地域における防災・減災に向けて、下水道事業の推進と予算確保を強く望みます。